

こうふくらしく♪

～ 3000人が楽しく暮らせるしくみづくり ～

江府町 小さな拠点づくり基本計画



平成29年3月現在

目次

第1章 基本的な事項.....	1
1. 小さな拠点づくりの趣旨	1
2. 江府町における基本的な方向	1
3. 何のため、誰のための計画か	1
4. 関連計画等との連携.....	2
5. 計画策定にあたって.....	2
6. 計画の目標年度.....	2
7. 計画の推進体制.....	2
8. 取組の周知・啓発、情報発信	3
9. 小さな拠点づくりの概要	4
第2章 江府町の暮らしの現状.....	5
1. 地域の現状.....	5
2. 町民からの声.....	8
第3章 小さな拠点づくりの基本構想	11
1. 基本理念.....	11
2. 「小さな拠点」づくりに向けた活動ステップ	13
3. 小さな拠点の実現に向けた基本方針.....	15
第4章 小さな拠点の実現に向けた取組.....	17
1. こうふくの人づくり	17
2. にぎわいのあるシックなまちづくり.....	20
3. 魅力を共有する交流づくり	23
4. やみつきになる暮らしづくり	26

第1章 基本的な事項

1. 小さな拠点づくりの趣旨

中山間地域等の集落生活圏（複数の集落を含む生活圏）において、安心して暮らしていく上で必要な生活サービスを受け続けられる環境を維持していくために、地域住民が、行政や民間企業、各種団体と協力・役割分担をしながら、各種生活支援機能を集約・確保したり、地域の資源を活用し、しごと・収入を確保する取組を「小さな拠点」づくりと言います。

江府町（以下「本町」）においては、町全域をひとつの集落生活圏と位置づけ、住民が主体となり、暮らしに必要なサービスの維持・確保を図りながら、地域生活を維持できる体制を確保することを趣旨として、本計画を策定するものです。

2. 江府町における基本的な方向

本町における「小さな拠点づくり基本計画」とは、以下の2点を主軸に置いた、役場の「まちづくりの方針」をまとめたものです。

①今後も人口減少が進む中、本町での生活を維持していくための機能を、医療・保健拠点、学校等の集まる「江尾」地区周辺をはじめ、道の駅「奥大山」、江尾駅、武庫駅の3駅を結ぶエリアを「拠点エリア」として集約します。そして、機能の集中した拠点エリア周辺と山間部を結ぶことで、各集落での生活の質を維持・向上します。

※ 拠点エリア周辺と山間部を「結ぶ」とは、山間部から拠点エリア周辺に人が出かけるだけでなく、拠点エリア周辺からも山間部に出かけていき、人・モノ・サービスが循環することを想定しています。

②人口減少が進む中、「どんな暮らしがしたいか」を決めるのは、本町に住む住民の皆さんです。よって役場は、住民の皆さん自身が主体となり地域の課題解決に取り組む「小さな」活動や仕組み、及びその拠点づくりを支援します。

3. 何のため、誰のための計画か

この計画は、役場として上記の「小さな拠点づくり」に進むという方針を示すものであり、そのために、住民の皆さんとどのように連携し、どのような方針で取り組むのかを整理したものです。計画の実現には住民の皆さんの力が必要不可欠です。

この計画を住民の皆さんと一緒に推進することにより、各集落の生活を維持・発展させていくことを目的としています。

4. 関連計画等との連携

本計画は、国の地方創生施策や鳥取県の地域振興施策、本町の未来計画や総合戦略等との整合性を図りながら推進するものとします。

5. 計画策定にあたって

本計画は、各集落への聞き取り調査、町民有志によるワークショップ「こうふくらしっく♪」による意見を参考として策定したものです。

6. 計画の目標年度

本計画の目標年度を平成33年度とします。

7. 計画の推進体制

地域づくりの原動力となるのは、個人、団体を問わず、地域を第一線で支える地域住民一人ひとりのみなさんです。住み続けたいと実感できる地域の実現に向けて、地域の自主的かつ主体的な取組を基本に、地域住民、役場が密接な連携を図りながら、総力を結集して小さな拠点の実現に向けて取り組むことが重要です。

(1) 住民の役割

地域づくりは、地域住民自らが、将来の展望を明確にして、その実現に向けて、主体的に取り組んでいくことが求められます。

また、普段当たり前に見えていたものが、実はかけがえのない宝物だと気づくことが「地域づくり」の始まりだと言われています。

このため、地域住民誰もが参加できる話し合いを通じ、地域の課題や地域が持つ魅力を明らかにし、地域住民合意の下に、地域が進むべき方向やあるべき姿を描いていく必要があります。

さらには、具体的な方策の検討や取組を進めるための体制づくりを進め、役場と連携・協働を図りながら「住民主導での地域づくり」を実現させていく必要があります。

(2) 役場の役割

役場は地域の抱える様々な課題に対して地域と協働し、主体的に地域づくりを進めていくことが求められます。

このため、小さな拠点づくりに向けた取組を総合的に推進するため、庁内の部局連携体制の強化や多岐にわたる地域課題に対応する一元的な相談窓口の設置など、支援体制の整備を行う必要があります。

また、地域づくりの推進主体として、地域の実態やニーズの把握に努めるとともに、

住民主導の地域づくり活動等に参画し、地域課題の解決に向けた積極的な支援を行うことが必要です。

さらには、必要に応じ、他の市町村と連携、協力を図りながら、広域的な取組による効果的な地域活性化策を推進することが求められます。

8. 取組の周知・啓発、情報発信

この計画は、江府町における小さな拠点づくりを住民の皆様と協働で実践していくための計画です。このため、町広報やパンフレット、ホームページ、講演など、幅広い手段を活用しながら周知・啓発していきます。

また、計画推進の最新の情報や、住民の取組やイベント、集会などの情報について、町広報を始め、ホームページ、SNSなどで広く発信し、多くの町民の参加を促進します。



■ SNS の活用



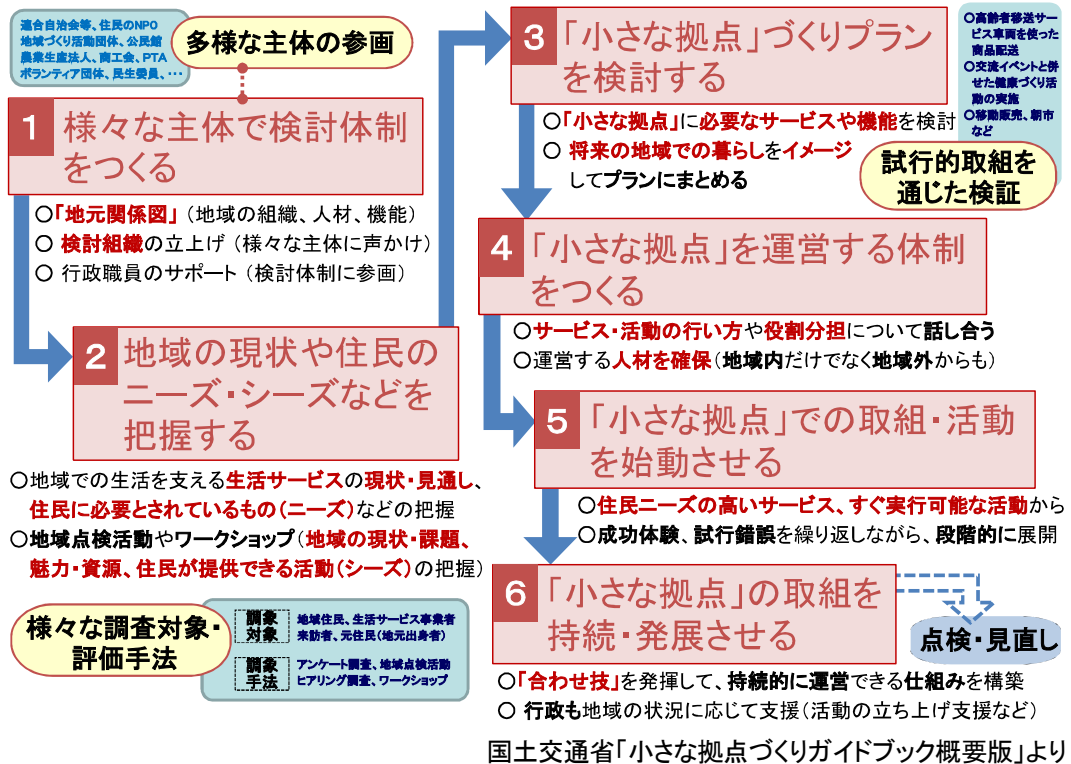
9. 小さな拠点づくりの概要

(1) 小さな拠点のイメージ図



国土交通省「小さな拠点づくりガイドブック」より

(2) 小さな拠点づくりの進め方



第2章 江府町の暮らしの現状

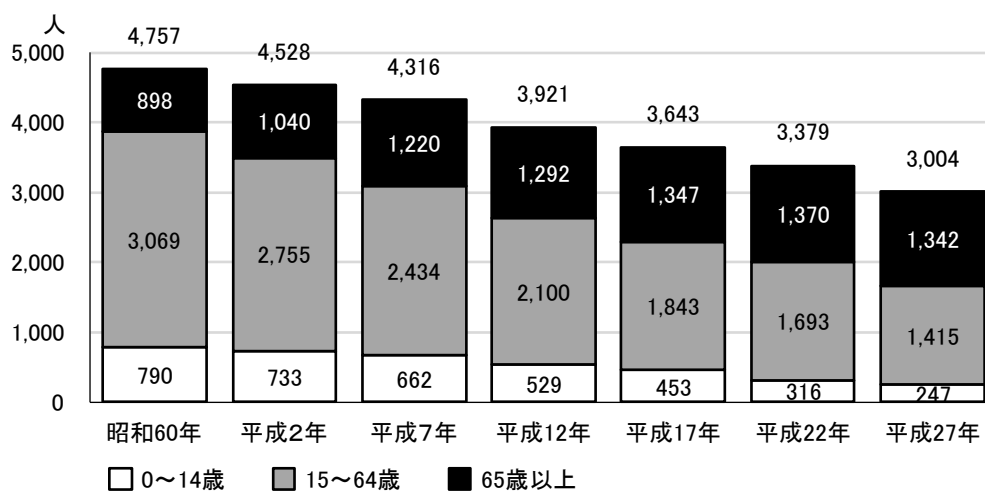
1. 地域の現状

(1) 人口と世帯の推移

■ 江府町の人口と世帯の推移

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	4,757	4,528	4,316	3,921	3,643	3,379	3,004
世帯数	1,289	1,220	1,213	1,138	1,098	1,074	1,010
男女別人口							
男性	2,297	2,174	2,057	1,843	1,700	1,558	1,402
女性	2,460	2,354	2,259	2,078	1,943	1,821	1,602
0～14歳	790	733	662	529	453	316	247
構成比	16.6	16.2	15.3	13.5	12.4	9.4	8.2
15～64歳	3,069	2,755	2,434	2,100	1,843	1,693	1,415
構成比	64.5	60.8	56.4	53.6	50.6	50.1	47.1
65歳以上	898	1,040	1,220	1,292	1,347	1,370	1,342
構成比	18.9	23.0	28.3	32.9	37.0	40.5	44.7

資料: 国勢調査



(2) 将来人口ビジョン

江府町総合戦略では、本町の人口ビジョンを想定しています。

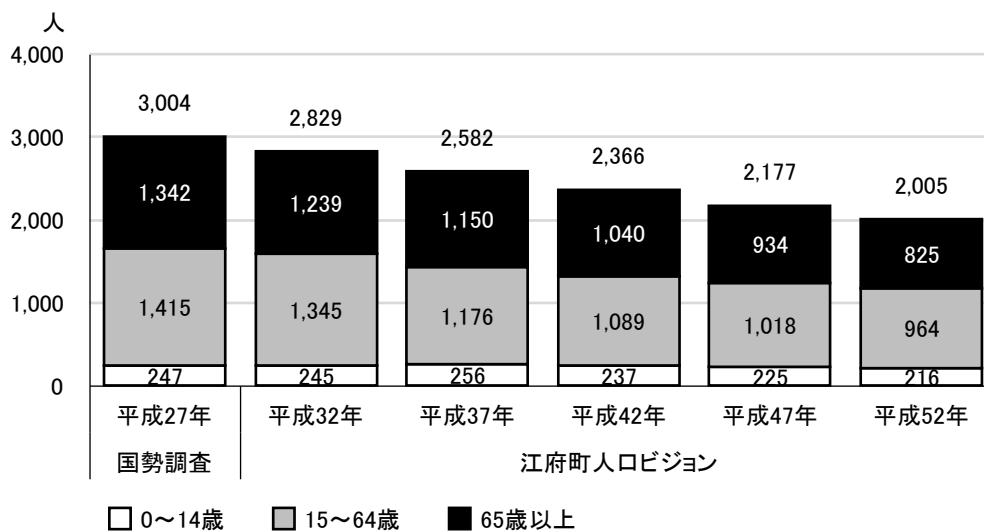
これによると、人口とともに高齢者数も減少しますが、高齢化率は平成42年頃まで上昇するとみられます。

また、平成37年には人口は2,500人台にまで減少するとみられており、人口規模や人口構造に応じたコンパクトなまちづくりが望まれます。

■ 江府町の人口ビジョン

	国勢調査	江府町人口ビジョン				
	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
総人口	3,004	2,829	2,582	2,366	2,177	2,005
0～14歳	247	245	256	237	225	216
構成比	8.2%	8.7%	9.9%	10.0%	10.3%	10.8%
15～64歳	1,415	1,345	1,176	1,089	1,018	964
構成比	47.1%	47.5%	45.5%	46.0%	46.8%	48.1%
65歳以上	1,342	1,239	1,150	1,040	934	825
構成比	44.7%	43.8%	44.5%	44.0%	42.9%	41.1%

資料：国勢調査、江府町総合戦略



(4) 地域資源の状況



資料:人口、世帯数は住民基本台帳平成 27 年度末
 江府町ハザードマップ及び耐震改修促進計画を参考に
 作成している。

2. 町民からの声

(1) 町民ワークショップからの意見のまとめ

本計画の策定に当たり、町民の暮らしの課題や地域資源の収集、町民のみなさんのまちづくりへの熱意を取り入れるため、町民ワークショップ「こうふくらしっく♪」を開催しました。

①実施概要

	開催日	内容
1回目	平成28年10月7日	基調講演(雲南市NPOおっちラボ事務長)。 地域で暮らしにくさを感じていることを話し合う。
2回目	10月14日	江府町の魅力(人物、出来事、場所など)を出し合う。 魅力と課題について、関係するものを繋いでみる。
3回目	11月4日	地域の課題を解決したり、生かしたりする活動や暮らしの機能ができないか、アイデアを考えてみる。 住民、地域、企業、行政の果たす役割分担について、出てきたアイデアを元に考えてみる。
4回目	11月11日	3回目が出たアイデアの実現に向けたプランを考えてみる。

②主な意見

●地域の課題

人材に関すること

- ・地域産業(農業)の担い手不足
- ・少子高齢化

地域コミュニティ

- ・地域の連帯感の希薄化
- ・組織の高齢化

仕事

- ・働く場が少ない
- ・新規の事業者がない

教育

- ・高校生になると出て行く
- ・子どもの参加する行事の減少

●地域の魅力

自然

- ・大山の姿
- ・夜空がきれい
- ・水がおいしい
- ・山の風景、川の風景
- ・自然で遊べる(釣り・登山・スキー)

地域コミュニティ

- ・まとまりがある

交通・通信に関すること

- ・車がないと移動しにくい
- ・中心部等の駐車場の不足
- ・JRの終電が早い
- ・バス・電車の数が少ない
- ・携帯電話がかかりにくい

日常生活に関すること

- ・近くに買い物できる場所がない
- ・近くに飲食できる場所がない
- ・空き家が多くなってきた
- ・集落の管理が難しい

日常生活に関すること

- ・移動販売がある

イベント・行事・文化

- ・十七夜
- ・地域ごとに祭りが多い
- ・歴史が古い、伝統行事がある

●地域の魅力

人

- ・顔が見えるつきあい
- ・保小中の連携がいい
- ・優しい人柄

生活環境

- ・生活費が安い（家賃、土地）
- ・食材が豊富でおいしい

●地域活性化のアイデア(例)

にぎわい・まちづくり

- ・まちなかにバーや駄菓子屋をつくる

産業

- ・町民主体の観光案内所

人材育成

- ・町民みんなが景観保存のボランティア
- ・観光ボランティアの育成



(2) 各集落からの意見のまとめ

町内の地域生活の現状と課題を確認するため、各集落の区長に対するヒアリング調査を実施しました。

①実施概要

聞取数	37 集落(全 40 集落中)
聞取日	平成 28 年9月 20 日～30 日

②主な意見

●主な利用施設

- ・各集落に公民館がある
- ・町民グラウンド
- ・旧社協後を活用したい（大浴場等）
- ・空き家を移住者のために使いたい
- ・小学校跡を活用したい

●集落の課題

- ・訪問販売があるが、買い物できる場所
- ・集落の戸数が減少している
- ・少数集落の併合や解消の仕組みがない
- ・独居高齢者の増加（見守り等の需要）
- ・防災無線が聞き取れない（高齢のため）
- ・人数が少なく、集落単独で行事等に参加できない
- ・雪かきの支援
- ・バス停の遠い地域がある
- ・携帯電話の通話が不便な地域がある

●今後の希望・方針

- ・コミュニティの若返り、再構築
- ・スキルを持った住民の活動を促進
- ・小規模集落の併合、解消
- ・祭り、行事、文化の継承
- ・既存の物を活用した地域振興
- ・中山間地域振興制度等の活用
- ・選挙の移動投票所
- ・基幹産業（農業）の継続

第3章 小さな拠点づくりの基本構想

1. 基本理念

本計画の基本理念（案）を次の通りとします。

こうふくらしっく♪

～ 3,000人が楽しく暮らせるしくみづくり ～

「こうふくらしっく♪」には、本計画を推進することにより、以下の4点が実現することを目指す意思が込められています。

こうふで、こうふくにくらそう♪

こうふのくらしをシック(おしゃれ)にしよう♪

こうふのクラシカル(伝統・文化・景観)な魅力を発信しよう♪

こうふのくらしにシック(やみつき)になって住み着こう♪

■小さな拠点の目指す姿

拠点エリアの設定

- 「江尾」地区周辺をはじめ、道の駅「奥大山」、江尾駅、武庫駅の3駅を結ぶエリア



2. 「小さな拠点」づくりに向けた活動ステップ

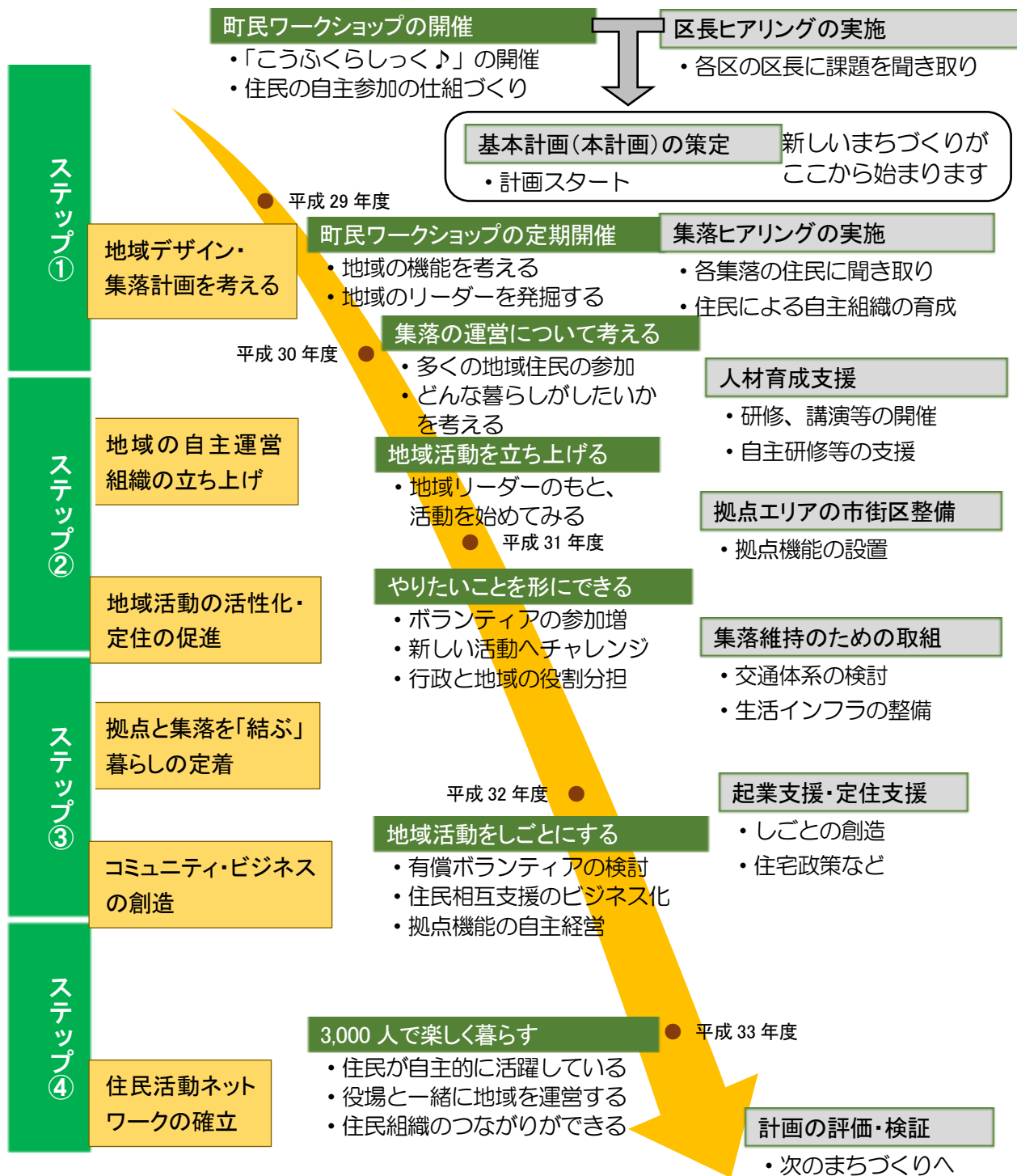
本計画では、拠点エリアを設定し、全ての住民の協働により発展、充実に取り組むものです。

大きく、以下の4つのステップで、役場と住民がともにまちづくりに係わり、江府町全体の地域の暮らしが向上することを目指します。

<p>ステップ① 【意識の喚起 ～内発的な 計画づくり】</p>	<p>○地域住民による集落生活圏の将来ビジョン(地域デザイン)の策定</p> <ul style="list-style-type: none">・今後の地域の在り方について、地域住民が主体的に参画し、地域の将来ビジョンを盛り込んだ「地域デザイン」(今後もその集落で暮らすために必要な、自ら動くための見取り図)を策定します。
<p>ステップ② 【取組体制 の確立】</p>	<p>○地域住民が主体となった持続的な取組体制(地域運営組織)の形成</p> <ul style="list-style-type: none">・持続可能な地域づくりのために、「地域デザイン」に基づき、地域住民自らが主体となり、役割分担を明確にしながら、地域課題の解決に向けた取組を持続的に行うための組織(地域運営組織)を形成します。
<p>ステップ③ 【生活サービスの 維持確保】</p>	<p>○日常生活に必要な機能・サービスの集約・確保、周辺集落との交通ネットワークの確保</p> <ul style="list-style-type: none">・日常生活に必要な機能・サービスを集約・確保し、周辺集落との間を交通ネットワークで結ぶとともに、地域住民のニーズに対応した、地域の運営組織等が提供する生活サービスの多機能化、生活サービスを持続していくための物流システムの構築等を推進します。
<p>ステップ④ 【仕事・収入 の確保】</p>	<p>○地域にあった多機能型のコミュニティビジネスの振興、地域経済の円滑な循環の促進</p> <ul style="list-style-type: none">・コミュニティビジネスを振興し、小さくとも地域に合った自立的な事業を積み上げ、地域経済の円滑な循環を促します。(複数の事業を組み合わせる実施する取組や横断的なビジネスを実行する人材の確保を推進する必要があります。)

内閣府地方創生推進室「住み慣れた地域で暮らし続けるために」より

■計画推進のフロー図



住民主体の活動

行政主体の活動

「小さな拠点」による
「こうふくらしっく♪」の実現

3. 小さな拠点の実現に向けた基本方針

基本理念

こ
う
ふ
く
ら
し
っ
く
♪

基本方針

- 1. こうふくな人づくり
- 2. にぎわいのあるシックなまちづくり
- 3. 魅力を共有する交流づくり
- 4. やみつきになる暮らしづくり

主な取組

- (1) 地域の人材を見つけて育てます
 - (2) 人と人を繋ぐ仕組みをつくります
 - (3) 活動拠点づくりを進めます
 - (4) 町民ができることを進めます
-
- (1) 人の集まる場所をつくります
 - (2) まちで働く人を増やします
 - (3) まちで活躍する人を応援します
-
- (1) みんなが地域を好きになります
 - (2) 交流人口をふやします
 - (3) 交流拠点づくりを進めます
-
- (1) 交通・通信を便利にします
 - (2) 地域文化を豊かにします
 - (3) 保健・福祉を充実します
 - (4) 集落整備の方針を定めます

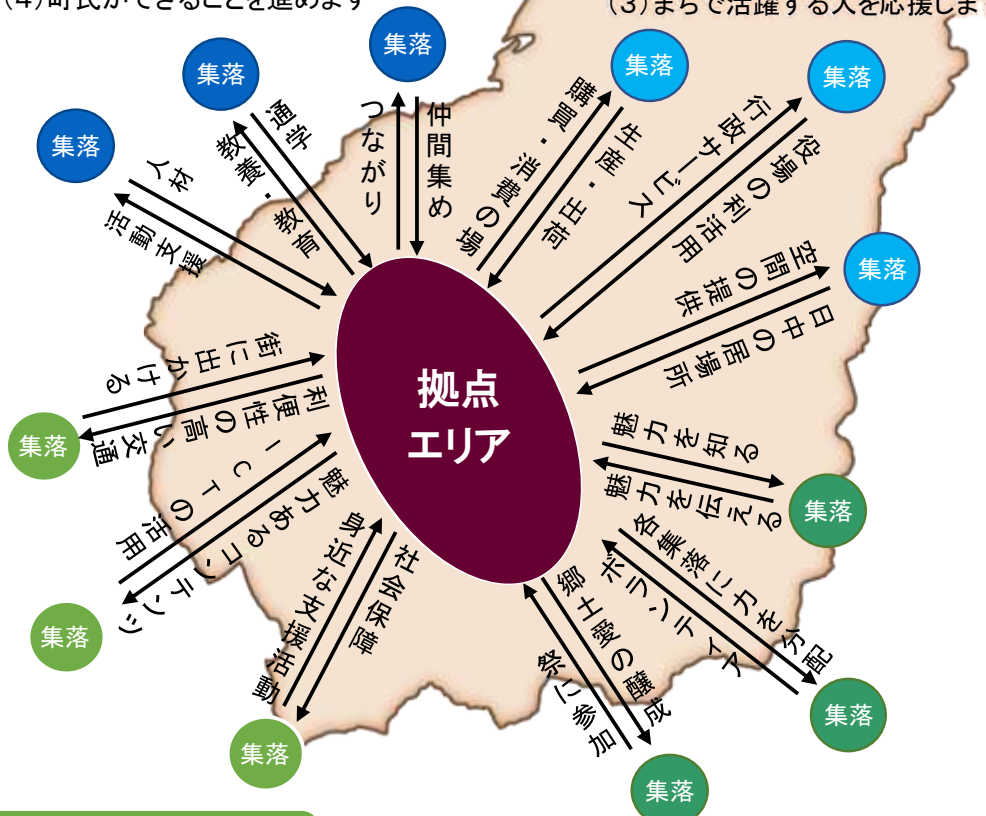
■基本的な方針

1. こうふくな人づくり

- (1) 地域の人材を見つけて育てます
- (2) 人と人を繋ぐ仕組みをつくります
- (3) 活動拠点づくりを進めます
- (4) 町民ができることを進めます

2. にぎわいのある シックなまちづくり

- (1) 人の集まる場所をつくります
- (2) まちで働く人を増やします
- (3) まちで活躍する人を応援します



4. やみつきになる 暮らしづくり

- (1) みんなが地域を好きになります
- (2) 交流人口をふやします
- (3) 交流拠点づくりを進めます

3. 魅力を共有する 交流づくり

- (1) 交通・通信を便利にします
- (2) 地域文化を豊かにします
- (3) 保健・福祉を充実します
- (4) 集落整備の方針を定めます

第4章 小さな拠点の実現に向けた取組

1. こうふくな人づくり

地域の課題解決に取り組もうとする意欲を持った人、地域の計画づくりや実践活動をコーディネートし、活動をサポートしたりする、地域の「要」となる人材を育成することが必要です。

住民主導の活動を進めていくために、日ごろから集まれる場所、活動の拠点となるしくみづくりを進めます。

地域の課題や将来展望を、住民の方同士が良く話し合ってもらい、できるだけ多くの方々の参画を得ながら進めます。

【現状】

- 公民館で自主講座が開催されている
- 奥大山カフェなどの集落単位の集いを始めている
- 健康づくり、介護予防への参加が増加している
- ひなまつりコレクションなどの地域活動が始まっている
- 明德学園（高齢者の生涯学習）による地域や子どもたちとのふれあいがある

【主な課題】

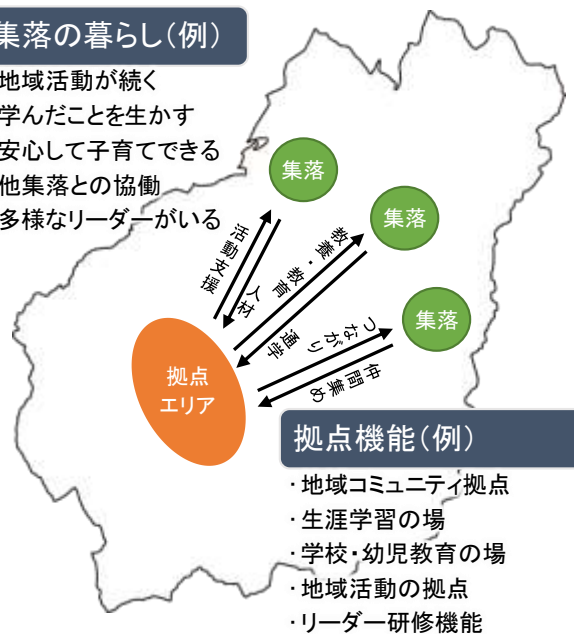
- 活動リーダーになる人が限られている
- 健康や介護予防などの「自分のこと」への参加は高いが、奉仕活動などへの参加が限られている
- 他の地域の取組を知っていても、一緒に連携することが少ない
- 団塊の世代や、壮年層の地域活動への参加が限られている
- 町外への通勤者が多く、地域コミュニティとのつながりが薄い人がある
- 少子化で地域に子どもが少なくなった

こんなまちを目指します

- 江府町のもつ価値や魅力を理解する人が増える。
- 地域を引っ張るリーダーと、それを支える住民のネットワークができていく。
- 自主的、主体的な活動が全町で見られるようになる。
- 学校などと協働で、ふるさとを好きになる、未来の大人たちが育つ。
- いつでも集まり、コミュニティ活動ができる場所がある。

集落の暮らし(例)

- 地域活動が続く
- 学んだことを生かす
- 安心して子育てできる
- 他集落との協働
- 多様なリーダーがいる



拠点機能(例)

- 地域コミュニティ拠点
- 生涯学習の場
- 学校・幼児教育の場
- 地域活動の拠点
- リーダー研修機能

(1) 地域の人材を見つけて育てます

- 多様な主体の地域づくりへの参画を促進するため、地域づくりのフィールドワークやノウハウを学ぶワークショップ等を開催し、地域づくりをリードする人材を育成します。
- 地域の学校で学ぶ子どもが、地域への愛着や理解を深め、自信を持って地域を語るができる人材に育つよう、各学校における地域の特色を活かした教育活動を支援します。また、子どもが地域の次世代のリーダーとして育ち、将来にわたって活躍できるよう積極的に取り組む地域を支援します。
- 地域リーダーについて、現在の後期高齢者の世代から、団塊世代への世代交代や若い人の参画を積極的に促していくとともに、Uターン者や地域おこし協力隊など外部からの人材確保を進めます。

(2) 人と人を繋ぐ仕組みをつくりま

- 地域に暮らす人々の連帯意識や心豊かな生活の維持・向上を図るため、地域における多世代のつながりや交流を促進し、様々な主体が連携・協働して支え合える地域づくりを進めます。また、地域課題の解決に向けて、地域に根差した住民団体（自治組織、NPO等）や行政、学術研究機関、企業等が連携して取り組む創意ある地域づくり活動を支援します。
- 中山間地域を内外から支える人材の広域的なネットワークづくりを支援し、地域の活性化に向けて多様な主体が参画するための広域的な仕組みづくりを進めるとともに、その効果を高めるための中山間地域全域にわたる活性化策を検討します。

(3) 活動拠点づくりを進めます

- 社会や地域の課題解決に取り組む公民館等の活動の活発化に向けて、人材育成や社会教育の学習機会等を充実するとともに、地域活性化への様々な環境整備等について、引き続き、国に要望していきます。
- 地域づくりに主体的に参画しようとする人づくりを進めるために、公民館等の活動の充実や公民館機能の強化を図るための支援を行います。

(4) 町民ができることを進めます

- 地域に必要な課題の解決に向けて、町民の組織化についての事例紹介や情報提供を行い、活動や地域の実情に応じた組織の形成を支援します。
- 地域の産業化につながる取組については、民間の専門家等や経験者等を活用して重点的に取り組みます。

主な施策

- 活動リーダーになる人材の育成
- まちづくりをテーマとする活動団体の育成
- ボランティア団体などの組織化、ネットワーク化
- コミュニティスクールなどの地域協働による学校運営の実現
- 学校等におけるふるさと教育の充実
- 退職後の世代(特に男性)を地域活動に取り込むための仕組みづくり
- 子供会に代わる、世代間組織の形成
- 地域で孤立させないための交流づくり

町民ワークショップからのアイデア

景観ボランティア「笑美の花を広げる会」

場 所	町内どこでも	協 力	社会福祉協議会
参加者	町民みんな	必 要	ボランティアを紹介する仕組み
時 期	いつからでもOK		掃除道具、運営の仕組み
			花野手入れができる人の育成

江府町がきれいなまちになります！！



2. にぎわいのあるシックなまちづくり

基幹集落における買い物、金融、医療、介護等の機能・サービスの維持・集約と併せ、地域内外の交流スペースや産直市などの地域産業の活動場所として、駅周辺や道の駅等を活用したにぎわい拠点の整備を進めます。

中山間地域には、豊かな自然環境や地域資源があり、これらを効果的に活用した地域の産業振興、コミュニティ・ビジネスなどの事業化を図り、その収入が地域内での消費活動につながるような経済の好循環の形成を図ります。

【現状】

- ほとんどの地域に移動販売が回っており、高齢者を中心に利用が多い
- 豊かな森林資源、水資源がある
- 空き家が増加している
- 農業を営む集落が多く、後継者問題がある
- 農産物加工などに取り組む地域がある
- 町内の雇用の場が限られている
- 行政機能が分散しており、一部老朽化している
- 道の駅「奥大山」ができています

【主な課題】

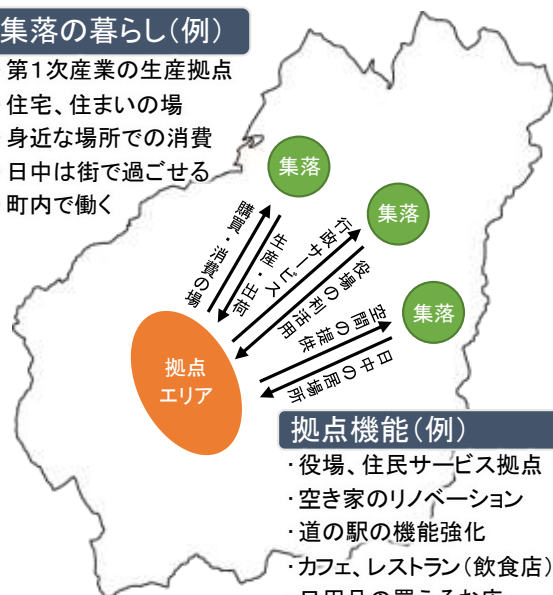
- 大型商業施設が町内にない
- 江尾地域に飲食店が少ない
- 水資源の保護と土地の活用の両立が求められる地域がある
- 空き家の持ち主特定や、再利用への理解を得ることが困難
- 町内の企業に他市町から通勤している
- 農業以外の町民が町外に通勤している
- 道の駅「奥大山」が観光拠点として不十分とおもわれる

こんなまちを目指します

- 江府町の中心街においては、一定の機能・住民サービスが維持されている。
- 住民との協働で、道の駅やJRの駅周辺の活用が進んでいる。
- 町民同士が支えあう仕組みによって、地域経済が活性化されている。
- 町内で日常生活の必需品をいつでも買うことができる。
- にぎわいの拠点となる機能集積が進んでいる。

集落の暮らし(例)

- 第1次産業の生産拠点
- 住宅、住まいの場
- 身近な場所での消費
- 日中は街で過ごせる
- 町内で働く



拠点機能(例)

- 役場、住民サービス拠点
- 空き家のリノベーション
- 道の駅の機能強化
- カフェ、レストラン(飲食店)
- 日用品の買えるお店
- 雇用の場

(1) 人の集まる場所をつくります

- 中心市街地に人が集まるよう、飲食店、商店、金融、保健・福祉などのそれぞれの拠点となる場所づくりを促進します。
- 日常的に地域住民が集まれるカフェや交流スペースなどの設置に向け、地域住民との話しあいや、運営組織の立ち上げ支援などに努めます。
- 増加する空き家等の活用を進めるため、空き家対策事業等との連携を図るとともに、地元企業や団体等が活用できるしくみづくりについて検討します。

(2) まちで働く人を増やします

- 地域の核となる農業の担い手を育成するため、規模拡大や多角的な経営など、発展意向のある集落法人や農業参入企業、認定農業者などの担い手に対して、農地集積や設備投資、経営スキルの向上など経営の高度化に向けた取組を支援します。
- 1次・2次・3次産業の多様な事業者間連携による6次産業化により地域資源をフル活用し、高付加価値化を推進します。
- 立地企業に対し、地元雇用を奨励します。

(3) まちで活躍する人を応援します

- 地域資源を活用した地域での起業や新商品・サービス開発等を支援します。
- 女性が、その個性と能力を十分に発揮し、自らが希望するワークスタイルや結婚・出産・子育てなどのライフステージに応じた、自分らしい働き方を実現できるよう支援します。

主な施策

- 道の駅「奥大山」の活性化
- 町内企業とのコラボレーションによる産業振興
- 買い物、飲食ができる店舗の誘致
- 住民による営利活動、起業等の支援
- 農業後継者の育成、確保



■ 道の駅「奥大山」

町民ワークショップからのアイデア

童心倶楽部「駄菓子屋 うまいBAR」

昼は駄菓子屋、夜は缶詰バー

場 所 駅前の空き店舗

参加者 出資者（一口1万円程度）

時 期 出資者が集まれば開始

協 力 小・中・高校生 協力隊 大人

必 要 仕入れ先（駄菓子、缶詰め、酒）、

ネットでもできる？

持ち寄り料理、カラオケセット



楽しいまち、賑やかな駅前、ふと立ち寄りたいまち！！

3. 魅力を共有する交流づくり

中山間地域における文化・伝統など地域資源を活用した観光振興に取り組みます。

子どもの頃からの地域全体での「ふるさと教育」により地域への誇りと愛着を高め、教育の魅力化による児童・生徒等の流入、地元就職に向けた取組を進めます。

観光ボランティアの育成などに積極的に取り組み、地元の人が地元の良さを知っているまちを目指します。

江府町の暮らしや地域の魅力を再発見し、積極的に発信することを通じて、交流を生み出し、これをUターン者の契機としたり、地域で就労機会を得るための支援を推進します。

【現状】

- ・「ひなまつりコレクション」が始まり、人気が出てきている
- ・小説「天の螢」のコミカライズなどにより魅力の発信を行っている
- ・十七夜などの歴史ある祭が続いている
- ・地域おこし協力隊などによる活動が行われている

【主な課題】

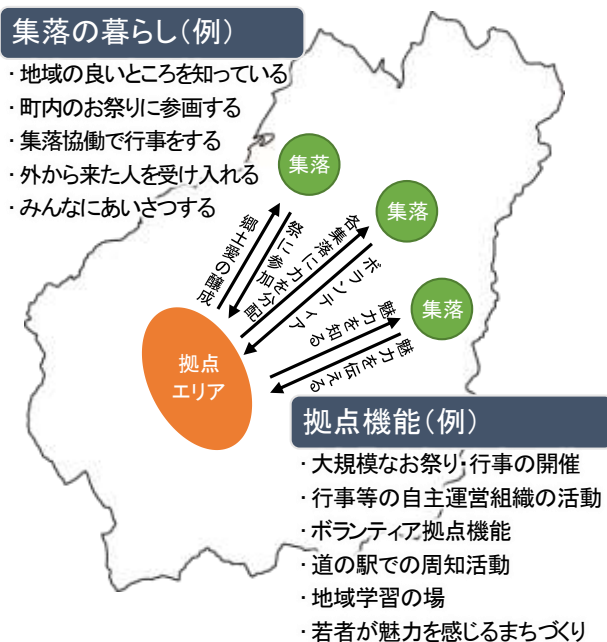
- ・健康や地域、景観保全などのボランティア活動は進んでいるが、まちづくりや観光などの分野では少ない
- ・地域の歴史を知っている人が少ない
- ・外から来た人を、集落の一員として受け入れる体制が少ない
- ・地元の人が地元の魅力を紹介できない

こんなまちを目指します

- ・お祭りや行事を自主的・主体的に開催する仕組みが維持できる。
- ・観光ボランティアなど、積極的に交流を仕事とすることができるまちになっている。
- ・自分の住んでいる地域のいいところを、住民の多くが知っている。
- ・Uターン者を受け入れる、地域の気風が育っている。
- ・若者やUターン者を雇用する場ができています。

集落の暮らし(例)

- ・地域の良いところを知っている
- ・町内のお祭りに参画する
- ・集落協働で行事をする
- ・外から来た人を受け入れる
- ・みんなにあいさつする



拠点機能(例)

- ・大規模なお祭り、行事の開催
- ・行事等の自主運営組織の活動
- ・ボランティア拠点機能
- ・道の駅での周知活動
- ・地域学習の場
- ・若者が魅力を感じるまちづくり

(1) みんなが地域を好きになります

- まちの地域資源の掘り起こしと広報に努めるとともに、子どもの郷土教育の一環として保全活動に取り組むなど、地域の魅力を地域住民が知り、誇りに感じるような取組を促進します。
- 地域美化活動などの地域活動への地域住民の参加を促進することにより、郷土への愛着を育みます。

(2) 交流人口をふやします

- 地元の人々との交流を通じて、農林業体験や地域の自然、文化、暮らしに触れ、中山間地域の魅力を体感することによって、交流定住や中山間地域の活性化につながる取組を促進します。
- ホームページ、ブログ、SNS 等による効果的な情報発信や観光宣伝を行うことで、全国から奥大山ファンの獲得を図ります。
- 道の駅の観光案内機能の充実を図り、リピーターの増加を促進します。

(3) 交流拠点づくりを進めます

- 観光客をおもてなしできる観光ボランティアの養成及び組織化を図るとともに、来訪者に対する町民の魅力の向上を図ります。また、地域自主組織等による観光交流メニューづくりを支援します。
- 道の駅などを活用した観光交流拠点づくりを推進するとともに、観光ボランティア等の交流活動拠点としての活用を検討します。
- 地域住民との話しあいにより、町内にある地域文化や産業遺産等を活用し、観光・交流の拠点として整備、活用できるよう検討します。

主な施策

- 「奥大山」の知名度の向上
- ふるさと教育の推進
- 町内の世代間交流、地域間交流の推進
- 道の駅の利用促進とリピーターの確保
- 道の駅の観光案内拠点としての活用促進
- 空き店舗や空き施設を活用した交流促進
- 住民の取組の連携と継続に向けた支援
- ボランティアの育成と確保
- 移住、定住のための情報発信や支援



■ 旧江尾発電所(全国で現存する石造発電所 11ヶ所の一つ)

町民ワークショップからのアイデア

育つ観光案内所♡「来てよかったと思える観光案内所！！」

場 所	道の駅	協 力	地域に詳しい人、明德学園
参加者	観光協会、町民	必 要	PR 動画作成
時 期	今でしょ!?		ボランティアの体験ツアー

町民さん一人ひとりがまちを好きになります♪

4. やみつきになる暮らしづくり

個々の対応だけでは生活機能の確保が難しくなる中で、「小さな拠点づくり」に向けて、拠点エリア周辺と山間集落との間や、米子市など近隣の都市とを結ぶ地域生活交通を再構築し、地域住民の移動手段を確保します。

中山間地域においても携帯電話が不自由なく使用できるよう、携帯電話事業者と連携し、不感地域の解消を進めます。

地域がより个性的で魅力あふれるものとなるため、地域の豊かな歴史、伝統文化を活かした活動が継続的に展開され、自信を持って暮らせる地域づくりを進めます。

高齢者が増加する中で、一人ひとりの高齢者の状況に応じて、住まいを中心に、介護予防・生活支援、医療・介護などを切れ目なく一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を構築します。

【現状】

- 高齢化率が上昇し 50~65%の集落もある
- 江尾駅前に総合健康福祉センターがあり、地域包括支援センターや診療所の機能を担っている
- 各地区公民館に介護予防の指導などの定期的な指導を行っている
- 急傾斜地などの災害危険地域がある
- 集落規模が縮小している
- 働き方や子育て、介護等の制度が変化している

【主な課題】

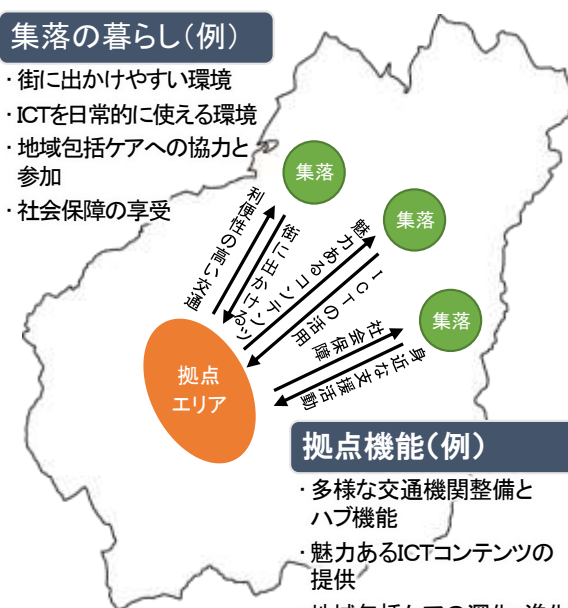
- 高齢者を支える世代の流出が大きい
- 介護保険サービスの事業者が限られている
- 各地域に大型の路線バスが通っているが、乗車率は高くない
- 集落や耕作地の一部において携帯電話の通じにくい場所がある
- 住民の自己負担などがあり、災害危険地域の解消が進まない場合がある
- 集落の無人化への対応ができていない
- 集落の統廃合への動きかけがない

こんなまちを目指します

- 地域に即した住民協働の地域包括ケアシステムが機能している
- 交通インフラを見直し、まちのどこに住んでいても最低限の外出手段がある
- 通信インフラが整い、様々な情報へのアクセスが簡単にできる
- 地域への愛着を持ち、まちでの暮らしが自慢できる人が増える

集落の暮らし(例)

- 街に出かけやすい環境
- ICTを日常的に使える環境
- 地域包括ケアへの協力と参加
- 社会保障の享受



拠点機能(例)

- 多様な交通機関整備とハブ機能
- 魅力あるICTコンテンツの提供
- 地域包括ケアの深化・進化
- 学校教育、医療、介護拠点

(1) 交通・通信を便利にします

- 地域においても携帯電話が不自由なく使用できるよう、国の財政支援制度等を活用しながら、携帯電話事業者と連携し、不感地域の解消を進めます。
- 幹線交通から集落間交通まで、輸送需要に応じて選択される様々な交通手段に対する切れ目のない支援など、新たな支援制度の在り方を検討します。
- 住民同士の話し合いを通じ、日常生活に必要な機能・サービスを集約化することにより維持・強化し、地域住民の移動手段を確保する交通対策の検討を進めます。

(2) 地域文化を豊かにします

- 地域において受け継がれてきた貴重な文化遺産や伝統文化に親しみ、体験することによって、地域の価値を共有するための環境づくりを推進します。
- 地域の祭り、伝統行事などへ、運営段階からの積極的な参加を促進します。

(3) 保健・福祉を充実します

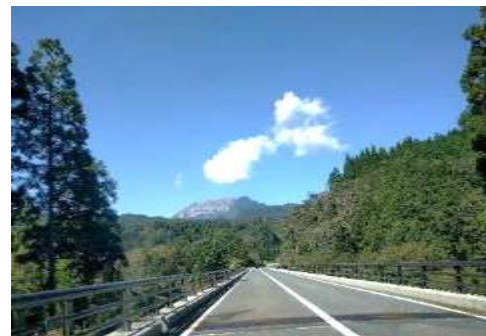
- 高齢者が増加する中で、一人ひとりの高齢者の状況に応じて、住まいを中心に、介護予防・生活支援、医療・介護などを切れ目なく一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築を進めます。
- 地域における効率的な医療体制の整備に向け、地域包括ケアシステムを支える在宅医療を推進します。
- 救急医療体制の維持を図るとともに、診療所機能の維持に努めます。

(4) 集落整備の方針を定めます

- 子育て支援や子どもの健やかな成長に資するほか、地域の絆を強める効果等が期待される多世代同居・近居を促進します。
- また、そのための居住環境の整備、充実に向けた取組を推進します。
- UIターン者に選んでもらえる、地域特性を活かした魅力ある暮らしづくりのため、空き家の掘り起こしと流通に向けた仕組づくりや上質な地域環境を創るための支援など、受入・支援態勢の構築を図ります。
- 地域住民との話しあいを通じ、基幹集落における買い物、金融、医療、介護等の機能・サービスの維持・集約に向けた取組を推進します。
- 地域づくりを意識した地域コミュニティの構築に向け、戦略的な仕掛けと具体的なアドバイスが行える体制づくり、連携づくりを進めます。

主な施策

- 地域包括ケアの構築に向けた高齢者施策の推進と、医療介護連携の構築
- 壮年期からの介護予防事業などへの地域参加の促進
- タクシー、バスなど、地域交通の見直し
- 防災無線のデジタル化
- 急傾斜地等の改修工事の推進
- 人口規模に応じたインフラの整備
- 移住、定住に向けた支援と住宅の確保
- 集落の見直しや将来のあり方の検討
- 空き家、廃校等の対策、有効活用
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 多様な暮らし方、働き方の支援



■ 整備された道路

江府町 小さな拠点づくり基本計画

こうふくらしっく♪

～ 3000人が楽しく暮らせるしくみづくり ～

平成 29 年3月

江府町役場

奥大山まちづくり推進課

〒689-4401 鳥取県日野郡江府町大字江尾 475

TEL 0859-75-3222 FAX 0859-75-3455

— 協力 —

(株) ジャパンインターナショナル総合研究所